



③ 那覇市の下水道のようす（汚水と雨水について）

1935年(昭和10年)に約15キロメートルの下水道が造られましたが、第2次世界大戦により施設が壊されたためあまり使用できませんでした。

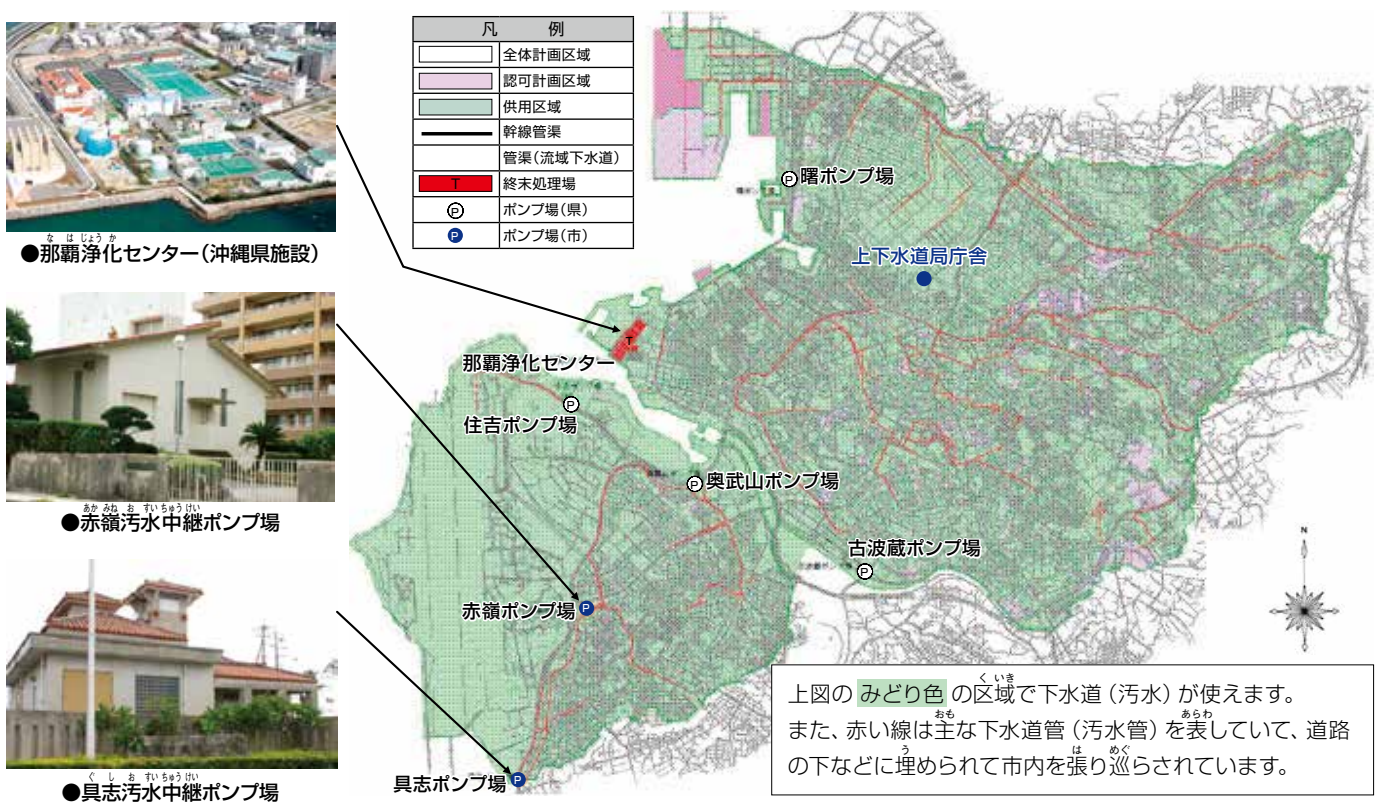
戦後、急激に人口が増えましたが汚水を処理する設備が不十分だったため、河川へのごみの不法投棄や生活で出る汚水などで、河川の水がどんどん汚れていきました。

また、大雨が降るたびに河川は氾濫し深刻な浸水被害をもたらしました。

1965年(昭和40年)7月那覇市で最初の下水道工事(汚水)が若狭、辻地区で開始されました。昭和44年7月、当時の下水道公社が運営する那覇下水処理場が使用開始したのと同時に那覇市の下水道も開始しました。

その後、1972年(昭和47年)5月に本土復帰となり、雨水の下水道も始まり、下水道の整備は急ピッチで進み、今では那覇市で下水道が使える割合は汚水は約90%、雨水は約48%になっています。なお、那覇市の下水道計画面積は約3,895ヘクタール、汚水整備面積約3,510ヘクタール、雨水整備面積約1,887ヘクタールです。(平成27年度末現在)

下水道(汚水)について



那覇市の下水道施設の主なものとしては、赤嶺汚水中継ポンプ場、具志汚水中継ポンプ場の2か所の汚水中継ポンプ場があります。(曙、住吉、奥武山、古波蔵の4か所のポンプ場は沖縄県の施設です。)

汚水は高いところから低いところへ流れる力で自然に流れるようになっていますが、浄化センターに送るまでの間には自然に流れない低いところもあります。そこで中継ポンプ場で汚水を高いところまで押し上げて浄化センターまで流れるようにします。

また中継ポンプ場より規模の小さいマンホールポンプ場が8か所あります。

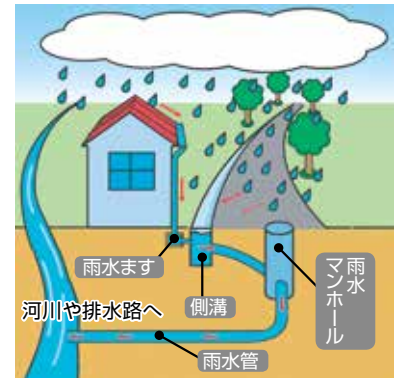
下水道(雨水)について

街に降った雨は雨水ますや道路の側溝から、地下に埋まった雨水管、排水路などを通して河川や海に流します。

雨水を河川や海へ流しだすために「排水路」と言う水のとおり道があります。排水路は側溝のようなものや川のように地表を流れるもの、地下に埋まった雨水管もあります。

那覇市では効率よく雨水を排水できるように市内を17の区域に分けています。(下の図の赤い線で囲んだ区域)

古波蔵地域では土地が低いため、よく浸水被害があったので、雨水管を整備したり雨水ポンプ場を設置しました。



主な河川や排水路



— 河川や排水路 — 排水区域 ※排水路でも川と名前が付いている場合があります。

上下水道局から皆さんへのお願いです!

危険ですので河川や排水路の中に入ってはけません。

排水路は立ち入り禁止です。ほとんどの排水路には柵が設置されていて入れないようにになっています。

天気良くても排水路の上流で局地的な大雨が降ると、急に流れが早くなり増水する恐れもあります。(河川の一部には水に親しむという目的で開放しているところもありますが、そのような河川に入る時でも天候などに気を付けましょう。)

